

平成28年度事業報告

I. 総括

希望郷いわて国体では、天皇杯得点で4年ぶりに800点台に上がったものの、順位は37位と前年の1つ上に止まった。

長野県白馬村で開催された冬季国体スキー競技会では、はじめて天皇杯・皇后杯同時獲得の偉業を成し遂げた。選手と役員が取組が功を奏し、「チーム秋田」の見本を見せてくれた。

平成28年度から新たに、無料職業紹介所を開設し、アスリートの県内就職支援のための競技活動サポート事業を開始した。また、五輪・パラリンピック候補選手の強化を支援するため募金活動を実施したが、募金額は伸びなかった。

「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」に併せて実施した日韓スポーツ交流事業（成人交流）と日韓スポーツ青少年冬季スポーツ交流事業（雪上競技）では、それぞれ互いの国を訪問し、生活や文化にも触れ、日韓の親善と友好を深めた。

本会事務局の競技スポーツ課と生涯スポーツ課を統合し事業課としたほか、専門委員会のメンバーを増員して競技力向上事業等の拡充を図った。

II. 事業内容

1. 競技スポーツ事業

【4,632千円】

(1) 第67回県民体育大会の運営に必要な経費の一部助成

40競技 7,498名が参加

2. スポーツの競技力向上及び普及等に関する事業

【146,329千円】

(1) 競技力向上対策事業

①スポーツドクター、トレーナーによるスポーツ医・科学的サポート

ア. 国体選手・指導者のメディカルチェック及びサポート

メディカルチェック（身体検査・採血検査）延べ84名 [6月25日、11月26日]

イ. 国体への帯同ドクターの派遣 本大会3名・冬季大会3名

ウ. ドーピング防止講習会の開催 延べ317名 [8月28日、9月2日、11月19日]

②東北総合体育大会・国民体育大会への選手団派遣

ア. 第43回東北総合体育大会（青森県）[8月19日～21日（主会期）]

エントリー数 36競技 933名が参加

イ. 第71回国民体育大会本大会（岩手県）[10月1日～11日（本大会）]

エントリー数 31競技 439名が参加

[結果] 天皇杯37位（817.5点） 皇后杯36位（486.5点）

*第71回国民体育大会報告会の実施 [11月18日]

ウ. 第72回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会（長野県）

[スケート 平成29年1月27日～31日]

エントリー数 1競技 13名が参加

[結果] 天皇杯31位（10.0点） 皇后杯23位（10.0点）

エ. 第72回国民体育大会冬季大会スキー競技会（長野県）

[スキー 平成29年2月14日～17日]

エントリー数 1競技 80名が参加

[結果] 天皇杯1位（150.0点） 皇后杯1位（59.0点）

◎冬季大会 [スケート・スキー競技] 総合成績

天皇杯5位（170.0点） 皇后杯7位（69.0点）

③秋田県高等学校強化拠点校制度等による選手育成・強化

ア. 秋田県高等学校強化拠点校

15競技、拠点校14校

拠点校の激励・戦力分析の実施

監督会議の実施 [5月24日]

イ. 中学生強化選手の指定・研修

選手の指定 6月25日 16競技 66名

11月26日 8競技 34名

資質・競技力向上研修（フィジカルトレーニング、宿泊研修等）の実施

[8月27日～28日、11月3日、平成29年2月25日]

④テクニカルアドバイザー等による競技力向上

テクニカルアドバイザー（11名） ジュニア育成アドバイザー（2名）を配置

⑤社会人チームの支援及び強化

国体等で活躍する社会人スポーツ選手の競技力向上のための支援

⑥トップアスリートの活躍を支援する取り組み（新規）

ア. 現役アスリートが県内に就職し競技を続行できるようにするため、アスリート就職推進アドバイザーを配置し、求人・求職情報の収集とマッチングサポートを実施

（求人・求職登録状況：求人19社、求職2名）

イ. 本県出身の五輪・パラリンピック候補選手を支援するため、募金活動を実施

（特定寄附金291千円）

（2）スポーツの普及・振興を図るための広報活動

①機関誌「スポーツ秋田」（3回 9月、12月、平成29年3月 各2,000部）

②スポーツ関連情報をホームページで発信

（3）加盟団体が実施したスポーツ事業への助成と日韓スポーツ交流事業の実施

①地域団体及び学校体育団体へ助成（39件）

②「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」に併せた日韓スポーツ交流事業（成人交流）

10競技 秋田県選手団派遣 [5月26日～6月1日 138名]

韓国選手団受入 [9月22日～28日 191名]

(4) 体育・スポーツの振興に顕著な功績があった者の顕彰

①秋田県スポーツ賞表彰 [平成29年2月24日]

功労賞5名、荣誉賞2名、生涯スポーツ賞(個人2名・団体1)、国際奨励賞1名
優秀指導者賞1名、栄光賞(個人37名・団体18)、奨励賞(個人5名・団体3)
特別賞「オリンピック・チャレンジ賞」(個人2名・団体1)

②人見スポーツ賞表彰 [平成29年3月28日]

個人の部 佐々木 悟(リオ五輪マラソン出場)
団体の部 秋田県スキーチーム(冬季国体 天皇杯・皇后杯同時獲得)

③畠沢国体賞表彰 [平成29年3月28日]

個人の部 生田 康宏(スキー競技)
団体の部 秋田県成年女子弓道チーム

④辻ジュニアスポーツ大賞表彰 [平成29年3月28日]

個人の部 土佐 千乃(フェンシング競技)
団体の部 秋田市ジュニアフェンサーズ(フェンシング競技)

(5) 人見スポーツ傷害基金による傷害防止対策事業

研修会の実施、啓発ポスター、チラシの作成
死亡弔慰金の給付 該当なし

(6) 競技団体が実施する競技会等の共同主催(後援)

共同主催 3件(県体、東北総体、日本スポーツマスターズ)
後援 95件

3. 生涯スポーツ振興事業

【40,271千円】

(1) 総合型地域スポーツクラブの育成指導・助言

①総合型クラブの創設

新規創設クラブ 1 (育成状況 73クラブ)

②総合型クラブ連絡協議会事業

ア. 総合型クラブ地区交流会の開催

県央地区クラブ交流会: 11月19日、参加者 67名

県北地区クラブ交流会: 11月20日、参加者 126名

イ. 総合型クラブ全県交流大会の開催: 9月10日 横手市 参加者 108名
11月13日 北秋田市 参加者 180名

ウ. クラブネットワークアクション2016の開催(日体協主催)

[11月5日~6日 秋田市 参加者 110名]

③チャレンジデーへの参加促進

5月24日 県内全市町村で実施. 総参加者数 約56万7千人

(2) スポーツ指導者養成のための講習会、研修会

①指導者養成講習会

[フェンシング：12月10・11日・17日・18日、参加者 18人]

②指導者研修会

[6月19日、秋田市 参加者 55名]

[12月4日、秋田市 参加者 49名]

(3) スポーツ少年団の競技別交流大会、リーダー養成の研修会等の実施

①交流大会

ア. 第53回秋田県スポーツ少年大会（由利本荘市、7月29日～31日）

イ. 第39回秋田県スポーツ少年団大会（各地、5月～平成29年2月、9競技）

ウ. 東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会（3県で開催、7月～3月、4競技）

②リーダー養成（随時開催）

ア. リーダー総会（秋田市、5月29日、指導者4名、団員12名）

イ. ジュニアリーダースクール（由利本荘市、7月29日～31日、53名）

ウ. リーダー研修会（秋田市、3月19日、指導者3名、団員4名）

エ. リーダーのつどい（秋田市、3月20日、指導者4名、団員15名）

③海外交流事業

ア. スポーツ少年団日独スポーツ交流事業

[受入：7月30日～8月5日 大潟村 9名]

イ. 日韓青少年冬季スポーツ交流事業（アルペン・クロスカントリー）

秋田県選手団派遣 [平成29年2月21日～27日 48名] 韓国江原道

韓国選手団受入 [平成29年1月8日～14日 50名] 鹿角市

④スポーツ少年団モデル育成事業

北秋田市、潟上市、横手市においてスポーツ交流会を実施

(4) スポーツ少年団認定員養成講習会等、スポーツ少年団顕彰等

①認定員養成講習会 7地区 1,323名認定

②認定員再研修会・育成母集団研修会 4地区 246名参加

（うち1回58名は、スポーツ少年団指導者研究協議会を兼ねて実施）

③スポーツ少年団顕彰事業

功労者14名、優秀指導者5名、優秀単位団6団、優秀母集団4団

④スポーツ少年団広報事業

ア. 広報誌「スポーツ少年秋田」（年2回 各2,900部）

イ. 「スポーツ少年団の現状」（年1回 1,100部）

4. 収益事業

【6, 516千円】

(1) 自主財源確保のための飲料水等の販売

①自動販売機事業（22施設 96台設置）

・事業収入 8, 566千円

②スポーツ立県キャンペーングッズ販売事業（ポロシャツ等）

・事業収入 28千円

Ⅲ. 財政基盤の確立及び組織の充実

1. 財政の確立

(1) 賛助会員

法人 84団体 個人23名

・受取会費 958千円

(2) 寄附金

①法人103団体 ②個人42名

・寄附金総額 5, 645千円

②特別寄付金 1, 000千円

秋田プロバスケットボールクラブ（株）からの、バスケットボールの普及・振興等のための寄附

③特定寄附金 291千円

五輪・パラリンピック候補選手を支援するため、チャリティーゴルフコンペの開催・街頭募金を実施

(3) 特定費用準備金

①人見スポーツ傷害基金 1, 500千円

人見スポーツ傷害基金事業費の財源として積立

2. 組織の充実

(1) 業務の効率化を図るため、競技スポーツ課と生涯スポーツ課を統合し、「事業課」とした。

(2) 強化対策を充実させるため、強化委員会のメンバーを補強したほか、東北ブロック予選大会を勝ち抜くため、競技戦力分析を行うサポーター制を導入した。